

都市開発を提案できる 思考力と創造力を

福島 茂 教授

Prof. Fukushima Shigeru

都市と事業構想

2年後期／選択科目・専門部門（開発・環境科目群）

事業構想の考え方を身につける

——「都市と事業構想」では、どんなことが学べますか？

都市の不動産開発を中心とした事業構想のあり方について講義しています。事業をどのようにプロデュースしていくのか、社会経済や文化の潮流の中で、どのような都市・開発・都市サービスが求められているかをしっかりと分析し、提案できる力をつけるために、事業構想の「考え方」を学ぶ講義です。

——具体的にはどんな力を磨きますか？

「事業主の意向は？」「開発地区のポテンシャルは？」「その地域のマーケットやニーズは？」「世の中のトレンドは？」などを複合的に考察・分析し、それをベースにベストプランを練る方法を学びます。不動産開発の場合は、事業の採算性も考慮する必要がありますし、不動産の寿命によってタイムスパンも異なります。数十年先のトレンドもつかみながら、都市に何が求められているかを読み解き、プランの立案へ結びつけます。ただ、論理的なデータの分析だけでは事業構想はできません。論理的なデータに基づいたプランニングと、クリエイティブな提案構想を行き来することが重要。論理的かつ創造的に提案できるような「考え方」を知り、身につけるための講義です。

論理的思考と創造的思考のバランス

——実際に学生がプランを練ることもありますか。

学生には、好んでよく行く店やアルバイト先など、実在する店舗についてレポート課題を出してもらっています。店や事業のコンセプトを調べて分析したり、考えたりすることで、そのコンセプトがどのように空間やサービスに体现されているかを自ら考察します。実際の経験から読み解くことで、こうした発想をする習慣が付き、「消費する側」から「創る側」に思考をシフトすることができます。

——都市情報学部で学べることはどんなことですか。

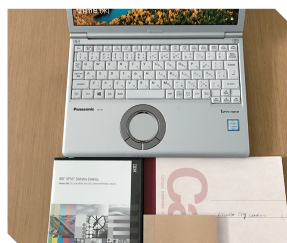
都市情報学部は文理融合型の学部です。さまざまな分野の知識を得て、広い視座から都市をマネジメントする力、都市空間やサービスをプロデュースする力を養ってほしいと思います。そのためには、多くの都市や地域の現場に出向いて実際に歩き、経験することが大切。創る側の意図を読み解くような挑戦もどんどんしてみてください。理論と実証を繰り返し、さらに論理的思考と創造的思考を何度も行き来しながら都市を見る力をつけることが、住み良い街をつくることにつながると思います。

福島先生の必需品

must have!

いつでも研究に取り組める4点セット

コンパクトなフィールドノートと思考をまとめるA4ノート、そしてデータ分析や研究論文執筆に不可欠なモバイルPCが必需品です。研究室や自宅だけでなく、朝の静かなカフェなど、どこでも研究に取り組めます。



学生の声



瀧 陽介さん（3年生）

事業計画や施設運営などのソフトな部分から、土地や施設などのハードの部分まで幅広い知識を習得できる講義です。不動産開発に限らず、様々な事業構想に活かせる汎用性の高い知識も身に付けることができます。福島先生は生徒と対話しながら講義を進めてくださるので、より深く理解できていると感じています。